

2. 研究会「物流戦略研究会」

物流戦略研究会の研究概要

(財)和歌山社会経済研究所

研究部長 梶谷昭治

平成11年度11月から約2年半にわたって研究を行ってきたが、本年6月には報告書及び提言をまとめ、研究会を終了する。この間の研究会やセミナー開催の状況と物流戦略研究会としての提言骨子などを報告する。

1. 研究会現状メンバー

主 査 小田和歌山大学副学長
リーダー 梶谷社会経済研究所研究部長
事務局 矢田商工会議所課長
笠井和歌山大学経済学部助手
メンバー 和歌山大学 今井教授 佐々木助教授
大津助教授
商工会議所 坂口事務局長 西岡参事
社 経 研 嶋渡研究員
特別参加 国土交通省近畿整備局
和歌山港湾工事事務所 三村係長

2. 研究会・講演会・セミナー・視察研修・共同調査などの実施状況

No	区分	開催年月日	議題・内容など	備考
1	研究会	H11.11.11	研究項目、メンバー等について	
2	研究会	H12.1.14	調査研究資料の収集、検討他	
3	研究会	H12.2.21	物流・流通の現状と課題（関係企業ヒアリング）	(株)新栄組など
4	研究会	H12.4.10	物流機能の整備について	
5	セミナー	H12.5.26	実物流データに基づいた物流研究手法など	三和総研：金岡氏
6	研究会	H12.7.6	研究項目と研究担当について	

No	区分	開催年月日	議題・内容など	備 考
7	講演会	H12.10.26	最近の国際物流について (オムロン:本郷氏)	国際経済 交流推進 協議会と 共催
8	視察研修	H13.1.16	オムロン ロジスティッ ククリエイツ(株)西部流通 センター	
9	研究会	H13.7.6	和歌山県における港湾など 物流実態と交通計画等の調 査結果について	
10	研究会	H13.10.12	物流戦略の基本方針の検 討その	
11	研究会	H13.11.30	物流戦略の基本方針の検 討その	
12	現地調査	H14.1.28	和歌山下津港及び物流上 問題がある道路など	
13	セミナー	H14.4.26	和歌山下津港の問題点と 活性化施策について	日通総研: 小梶氏
14	研究会	H14.6.13	報告書審議	
15	共同調査	H13.12.26	和歌山下津港周辺地域交 通流動分析調査WG	
16		H14.1.30	(国土交通省近畿地方整 備局 和歌山港湾工事 事務所の調査ワーキン グに参加)	
17		H14.2.26		

3. 提言骨子

当初の物流戦略としては、京奈和道や紀淡海峡大橋に近い「直川やコスモパーク加太」など内陸部に物流センターを設置し堺以南の南近畿の物流拠点とする構想であった。しかし、この構想は、物流実態調査の結果、確保できる物流の絶対量が少ないこと及び現在は物流ロード(物流拠点)を徹底的に削減してトータル物流コストを低減させる方向とは逆になるので断念することとした。

今回は、新たに和歌山下津港本港地区を陸海が一体となった物流基地として整備することを中心とした以下の様な骨子でまとめ、提言することとする。

(1)物流産業を和歌山の戦略産業とする背景

大阪湾の入り口に位置すると共に、京奈和道・第二阪和道など道路整備、和歌山下津港の整備、関西国際空港の整備による陸・海・空交通の要衝となる立地の優位性

グローバル化、即ち国際分業の進展により物流量、特に輸入物流量は着実に増加する。従って空洞化しない産業である。また、増加する中心はコンテナであるが、和歌山港の自県のコンテナ取扱量シェアが僅か 5 % に過ぎず、今後の有効な戦略により取扱量シェアを拡大できる可能性が高い。

トラックを主体の物流から船や鉄道を活用するモーダルシフトや廃棄物をリサイクルするための運送(静脈物流)など、地球環境問題に配慮した物流に転換する必要がある。また、ITなどを活用した新しい物流システムの構築も必要とされている。

大阪ベイエリア全体の機能充実と危機管理対応(リダンダンシー)のために、和歌山下津港への機能分担が必要雇用吸収力が高く、空洞化しない物流関連産業の集積により地域の活性化を図ると共に地域雇用を確保するために重要。

(2) 新基本構想

和歌山下津港を和歌浦・雑賀崎一帯と一体的に整備、観光地としても通用する緑と水が溢れる陸海の物流拠点化

和歌山下津港本港を、コンテナに対応した海送物流拠点としてガントリークレーン・ストラッドキャリアなど整備、機能強化する。なお、将来的には、北港水深を 16m 化し、神戸・大阪港に代替できる大型コンテナ船の寄港港を視野に入れて整備を進める。

和歌山下津港本港東の埋立地(約 340m × 860m)を陸送物流拠点として整備する。

なおこれらの整備にあたっては、緑や水辺空間を十分に確保し、和歌浦・雑賀崎地域との調和を図る。

産業用道路整備

25t 対応整備の促進など物流上問題のある道路の改善
将来的には第二阪和道への連絡道路の整備

臨海道路	河口大橋	紀ノ川右岸道路 - 第二阪和道 (2010 年予定)
		紀ノ川左岸道路 - 京奈和道・高速阪和道
		県庁前線-----26・42 号線・高速阪和道

その他渋滞個所の部分改良

IT を活用した新しい物流ネットワークの構築

トラック陸送主体の物流システムから、船 - 鉄道 - トラック陸送を適切に組み合わせた物流ネットワークシステムを IT 等も活用して構築する。

港湾活性化、交通渋滞対策など総合ソフト施策

- ・和歌山港を利用した場合の生産地から消費地までのトータルコスト調査と取扱量との相関を分析して、ポートセールの具体的な目標を明確化 実施可能な施策をまとめ、実行する体制を整備する。
- ・25 t 対応以外に当面具体性のある道路整備は難しいので、TDM 施策を中心とした交通関連施策をまとめ、実行する体制を整備する。

4 . 今後の進め方

H14 年度以降は、この提言骨子を以下の順序で具体的なアクションプランに落とし込んでいくこととする。

港湾活性化(中国航路開設ワーキングなど)、交通渋滞対策など総合ソフト施策

IT を活用し、船 - 鉄道 - トラックを統合した新しい物流ネットワークの構築

和歌山本港地区の陸海物流拠点の具体構想

以上